

**構造関係共通図 (鉄骨標準図)**

**総則**

1. 適用範囲
  - (1) 本構造関係共通図は鉄骨及び鉄骨鉄筋コンクリート
  - (2) 本構造関係共通図以外については、設計図及
2. 用語の定義
  - (1) 設計図とは、建築構造図のうち特記仕様書
  - (2) 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする
3. 優先順位
  - (1) 設計図書間で配筋方法に相違がある場合は、
    1. 特記仕様書 (構造関係)
    2. 図面 2-1 設計図
    - 2-2 構造関係共通図 (鉄骨)
  3. 国土交通省大臣官庁官庁官庁官庁官庁官庁官庁官庁「公」
4. 記号等
 

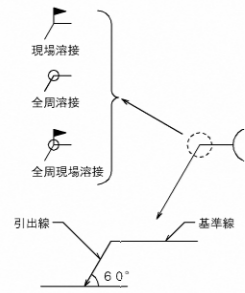
図面で使用する記号等は、表A~D、図Aを標準とす

表A 高力ボルト径の記号

区分	径	M12	M16	M20
高力ボルト (F10T、S10T)		●	●	●
溶融亜鉛めっき高力ボルト (FBT相当)				

表C 溶接継手及び

区分	溶接継手	溶接面	
		完全溶込み溶接	両面溶接
溶接継手	完全溶込み溶接		
	両面溶接		
	部分溶込み溶接		
溶接面	重ねアーク溶接		
	片面溶接		



※特記無き限り、完全溶込み溶接の溶接方法

図A 溶接記号

**1-1 縁端距離及びボルト間隔**

- (1) 縁端距離及びボルト間隔
 

縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし以上並ばない場合の縁端距離は、構造図による。また、アンカーボルトの縁端距離は構造図による。

表1.1 縁端距離及びボルト間隔

ねじの呼び	縁端距離 e
M12	40
M16	
M20	
M22	
M24	45

- (2) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔
 

千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による

表1.2 千鳥のゲージ及びボルト間隔

ゲージ e	千鳥打ちのボルトのねじ	
	M12, M16, M20, M	
35		50
40		45
45		40
50		35
55		25
60		-

トの加工、組立の一般的な基準とする。

図共通図以外の図面をいう。

トとする。

(建築工事編) (令和4年版)

表B 普通ボルト径の記号

区分	M12	M16	M20	M22	M24
ボルト	○	○	○	○	○

記号	
----	B
---	T
---	F
---	P
---	F L
---	1
---	2

表D 溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	▶
全周溶接	○
全周現場溶接	◉
溶接の長さ及び間隔	L-P

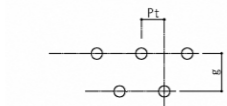
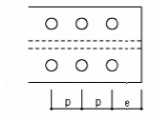
接の間隔

接の長さ

基準線

方法等による。

おいて、せん断力を受けるボルトが筋力方向に3ボルト軸径の2.5倍以上とする。



- (3) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径
 

形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位: mm)

A又はB	最大軸径		B	最大軸径		B	最大軸径	
	e1	e2		e1	e2		e3	
45	25	12	100	56	16	50	30	12
50	28	16	125	75	16	65	35	20
60	35	16	150	90	22	70	40	20
65	35	20	175	105	22	75	40	22
70	40	20	200	120	24	80	45	22
75	40	22	250	150	24	90	50	24
80	45	22	300	150	40	100	55	24
90	50	24	350	140	70	24		
100	55	24	400	140	90	24		
125	50	35	24					
130	50	40	24					
150	55	55	24					
175	60	70	24					
200	60	90	24					

※1 千鳥打ちとした場合

**1-2 溶接継手の種類別優先標準**

突合せ継手(B)の優先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシルドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 12$		
6 < t ≤ 19	12 < t ≤ 22		
19 < t ≤ 40	22 < t ≤ 40		

$D1 = 2(t-2)/3$   
 $D2 = (t-2)/3$   
 $D1 = (t-6)/2$   
 $D2 = (t-6)/2$

T型継手(T)の優先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシルドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 6$	$t \leq 12$		
6 < t ≤ 19	12 < t ≤ 22		
19 < t ≤ 40	22 < t ≤ 40		

$D1 = 2(t-2)/3$   
 $D2 = (t-2)/3$   
 $D1 = (t-6)/2$   
 $D2 = (t-6)/2$

部材が直交しない場合の優先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシルドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$6 < t \leq 40$	$6 < t \leq 19$

かど継手(L)の優先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシルドアーク溶接)		A
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)
$t \leq 6$		
6 < t ≤ 19		
19 < t ≤ 40		

隅内溶接(F)の優先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシルドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$t \leq 16$	$t \leq 16$

隅内溶接のサイズ

(単位: mm)	
t	4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
s	3 4 5 5 6 7 8 3 9 10 10 11

部分溶込み溶接(P)の優先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシルドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
$12 \leq t \leq 40$	

$t \leq 9$  12 16 19 22 25 28 32 36 40  
 $D \leq 10$  11 12 13 13 14 15 15 16  
 $1/4 t \leq S \leq 10$

(単位: mm)

t ≤ 40
--------

(単位: mm)

動溶接
(両面溶接)

(単位: mm)

t ≤ S ≤ 10
(t-6)/2
(t-6)/2
t ≤ S ≤ 10

重ねアーク溶接 (フレア溶接) (FL) の優先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフェシルドアーク溶接)			
1 (丸鋼等片面溶接)	2 (丸鋼等両面溶接)	3 (軽量形鋼V形溶接)	4 (軽量形鋼I形溶接)
		t ≥ 3のとき S = t t < 3のとき S = 3	t ≥ 3のとき S = t t < 3のとき S = 3

**1-3 鋼管分岐継手詳細**

自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。

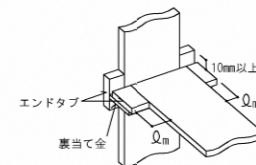
(単位: mm)

消火管厚 3.2mm ≤ t ≤ 12mm  
 交角 30° ≤ θ ≤ 150°  
 主管の管軸と支管の管軸とは一致させること。

**1-4 鉄骨溶接施工**

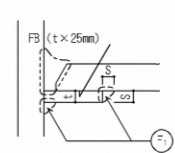
- (1) エンドタブ・裏当て金の鋼材の種類及び引張強さによる区分は、母材と同等とする。
- (2) エンドタブ
 

エンドタブの形状は母材と同等・同開先のものとする。



溶接方法	Qm
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

- (3) 裏当て金
  - (ア) 裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を及ぼさないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置には行わない。
  - (イ) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内側に設置する。



裏当て金の厚さ (単位: mm)	
溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ (単位: mm)	
裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

工事名 東莞宮駅東口立体施設整備工事 (建築)

路線名 市道莞宮76号線

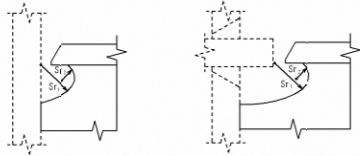
工事箇所 久喜市桜田1丁目地内

図面名 構造関係共通図 (鉄骨標準図・その1)

縮尺 S= 図示 図面番号 S-5

埼玉県 久喜市 都市整備課

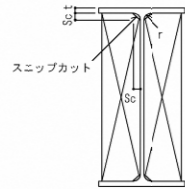
- (4) スカラップ  
改良型スカラップ  
(ア) スカラップ半径 $Sr$ は35mmとする。 $Sr_1$ は10mmとする。  
(イ) スカラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



従来型スカラップ  
スカラップ半径 $Sr$ は35mmとする。



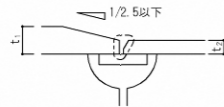
- (5) スニップカット  
(ア) スニップカット部は溶接により埋めるものとする。



(イ) スニップカットの寸法は、下表による。ただし、既製鋼のスニップカットについては、 $Sc \geq t + 2$ により求めるものとする。

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

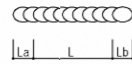
- (6) 溶接部分の段差  
完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合、又は低応力高サイクル疲労を受ける場合



### 1-5 重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ

鉄筋又は軽量形鋼に重ねアーク溶接（フレア溶接）を行う場合の溶接長さ（L）は、ビードの始点（Le）及びクレーター（Lb）を除いた部分の長さとする。

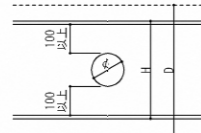
- L：片面フレア溶接の場合 10d  
両面フレア溶接の場合 5d  
La及びLbは1d（軽量形鋼については1S）以上  
d：異形鉄筋の呼び名に用いた数値  
S：溶接のサイズ



### 1-6 梁貫通孔補強

- (1) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部に貫通孔を設ける場合は、次による。  
(ア) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せい1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せい1/3以下とする。  
(イ) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。

梁貫通孔の位置の限度（単位：mm）

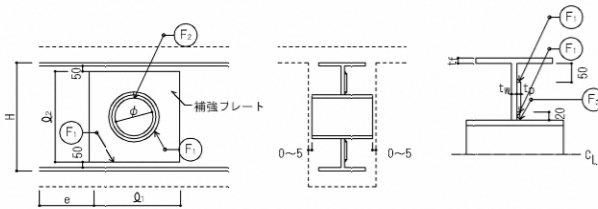


H：鉄骨せい  
D：はりせい  
φ：貫通孔内径寸法  
(φ ≤ H/2かつφ ≤ D/3)

- (2) 貫通孔の補強方法は、構造図による。  
補強プレート法及び補強トラス法の溶接等は、以下による。

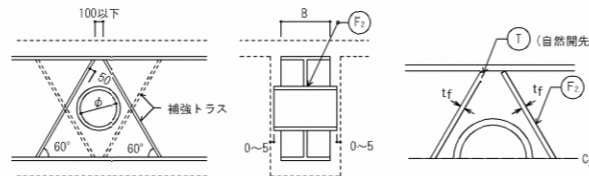
補強プレート法

- (ア) 補強プレートが16mm以上となる場合は、必要な長さの1/2以上の補強プレートをウェブ両面から溶接する。  
(イ) 補強プレートは丸型としても良い。上下フランジとのあき50mmについては施工性を考慮して小さくすることもできる。

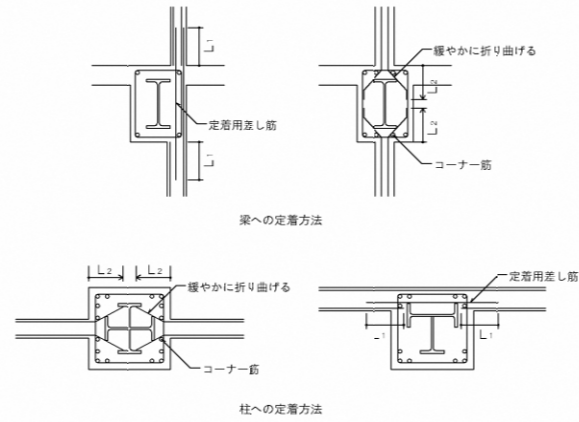


φは3φまたはφのうち小さい方とする。（φ ≥ Hとする）  
e：材端と補強プレートの間隔

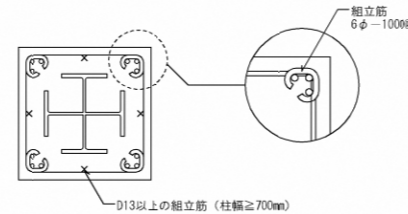
補強トラス法  
スリーブの取付けは、全周隅肉溶接とする。



### 1-7 壁筋の周辺部材への定着

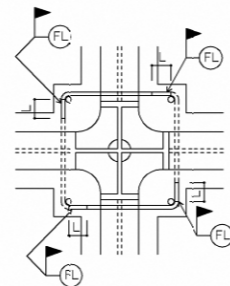


### 1-8 柱組立筋



### 1-9 仕口部内の帯筋の加工及び組立

片面溶接の溶接長さ（L）は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135°曲げフックとする。

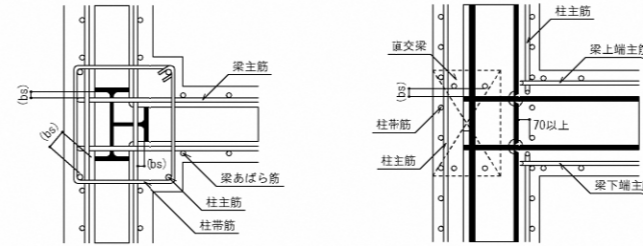


### 1-10 鉄筋貫通孔の径及び位置

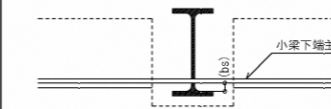
- (a) 鉄筋貫通孔の径  
鉄筋の貫通孔径の最大値は、下表による。

	（単位：mm）							
鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

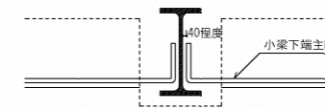
- (b) 鉄筋貫通孔の位置  
鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。



小梁下端主筋が貫通する場合



小梁下端主筋が貫通しない場合（単位：mm）



(bs)：主筋と平行する鉄骨とのあき

### 1-11 広幅平鋼の取り扱いについて

- (a) 鋼材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスペードは、PL表記であってもFB又はFLとする。  
(b) 鋼材のフランジ及びフランジに使用する外側スライスペードの適用幅及び厚さは下表による。

		厚さ										
		6	8	12	16	19	22	25	28	32	36	40
幅	100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	300	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	350	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
400	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
450					○	○	○	○	○	○	○	
500					○	○	○	○	○	○	○	

### 1-12 普通ボルト接合

もや、鋼線鋼の取付け用ボルトを普通ボルト接合とする場合は、二重ナットとする。

### 1-13 その他

- (a) フィラープレートの材質  
フィラープレートを使用する場合は、材質はSS400とする。

工事名	東鷲宮駅東口立体施設整備工事（建築）		
路線名 河川名	市道鷲宮76号線		
工事箇所	久喜市桜田1丁目地内		
図面名	構造関係共通図（鉄骨標準図・その2）		
縮尺	S= 図示	図面番号	S - 6

埼玉県 久喜市 都市整備課



### 特記仕様書（構造関係）

#### I 建物概要

1. 主要用途 シェルター
2. 工事場所 久喜市桜田1丁目地内
3. 棟名称及び構造・階数等
 

棟	S 造	1階建て（地下 階・PH 階）		
建築面積	㎡			
延べ面積	㎡			
床面積	㎡			
階	㎡			
階	㎡			
階	㎡			
階	㎡			
建物高さ	m	軒高さ m		
工事種別	○新築	・増築	・改築	・移転
増築計画	・有り	○無し		
構造種別	地上	S 造	地下	造
架橋形式	X 方向	ラーメン	構造	
	Y 方向	ラーメン	構造	
耐震構造方式	○耐震構造	・免震構造	・制振構造	
耐震安全性の分類	・I 類 (I=1.50)	・II 類 (I=1.25)	・III 類 (I=1.00)	

#### 4. 構造計算条件

##### a 耐震設計条件

地震荷重	建物一次固有周期 ( ) 秒	
地盤種別	第 ( ) 種地盤	
地域係数	Z=	
計算ルート	X 方向	※ 許容応力度計算 (ルート ) ・その他
	Y 方向	※ 許容応力度計算 (ルート ) ・その他
設計層間変形角	X 方向	一次設計
		二次設計
	Y 方向	一次設計
		二次設計

##### b 耐風設計条件

基準風速 (V)	( ) m/秒
地表面粗度区分	I II III IV

##### c 耐積雪設計条件

建設地の標高	( ) m	
多雪区域の指定	・有り	・無し
設計垂直積雪量	( ) cm	

#### 5. 地盤調査資料

調査内容	・サウンディング (※ 標準貫入試験 ) ・土質試験 ・孔内水平載荷試験 ・平板載荷試験	
調査位置	構造図 ( / 図) による	
液化対策の検討	・有り	・無し

#### II 建築工事仕様

- (1) 質問回答書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて「埼玉県建築工事特別共通仕様書」及び国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」（令和4年版）」（以下、「標準仕様書」という。）による。
- なお、新たな版が出版され、当該基準によりがたい場合は、監督員と協議し、適用する基準等を決定する。
- (2) 標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。
- (3) 特記仕様書の表記
  - 1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
  - 2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
  - 印と◎印の付いた場合は、共に適用する。○印と※の場合は、◎のみを適用する。
  - 3) 特記事項に記載の [ . . . ] 内の表示番号は、埼玉県建築工事特別共通仕様書の当該項目、当該図表を示す。
  - 4) 特記事項に記載の ( . . . ) 内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。
  - 5) 製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また ( ) 内は製品名を示す。
  - 6) ◎は「特定調達品等」を表す。
  - 7) 注は標準仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。

章	項目	特記事項																								
4 地盤工事	1 支持地盤等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・杭基礎 (4.2.1)(4.3.4、5)(4.6.5、6)</li> <li>・支持地盤の位置及び種類(基礎ぐいの先端の位置含む)</li> <li>・図示による( )</li> <li>・直接基礎</li> <li>・支持地盤の位置及び種類(基礎底部の位置含む)</li> <li>・図示による( )</li> <li>・試験掘り(根切り底の状態の確認等)</li> <li>・行う(位置等・図示による( ) )</li> <li>・長期設計支持力 ( ) kN/m<sup>2</sup></li> <li>・地盤の載荷試験 ( ) 箇所 (4.2.4)</li> <li>・載荷試験の方法</li> <li>・地盤工学会基準JGS 15211による</li> <li>・試験の位置、載荷荷重</li> <li>・※図示による( )</li> <li>・液化化対策</li> <li>・工法、施工範囲、仕様及び計測、試験等 ※図示</li> </ul>																								
	2 製鋼コンクリート杭地業	<ul style="list-style-type: none"> <li>種類 (4.3.3)</li> <li>・遠心力高強度プレストレストコンクリート杭 (PHC杭)</li> <li>・プレストレスト鉄筋コンクリート杭 (PRC杭)</li> <li>・外設鋼管付きコンクリート杭 (SC杭)</li> <li>・SC杭の鋼管材料 ・SKK400 ・SKK490</li> <li>寸法、継手、性能等 (種別：種類、性能及び曲げ強度区分) (4.2.2)(4.3.3)</li> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>コンクリート強度(N/mm<sup>2</sup>)</th> <th>鋼管厚(mm)</th> <th>杭径(mm)</th> <th>杭長(m)</th> <th>継手数</th> <th>長期設計支持力(kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <li>杭先端部形状 (4.3.3)</li> <li>・開放形</li> <li>・半開放形</li> <li>・閉そく形</li> <li>施工方法 (4.2.2)(4.3.1、4)</li> <li>・セメントミルク工法</li> <li>・試験杭の位置</li> <li>・図示による( )</li> <li>・掘削深さ</li> <li>・図示による( )</li> <li>・杭の支持層への根入れ深さ</li> <li>・図示による( )</li> <li>・杭の精度</li> <li>・水平方向の位置ずれ寸法</li> <li>・杭径の1/4かつ100mm以下</li> <li>・杭の傾斜</li> <li>・1/100以内</li> <li>・根固め液及び杭周固定液の管理試験</li> <li>・※標準仕様書4.3.1(6)(a)による</li> <li>・特定埋込杭工法 (4.2.2)(4.3.1、5)</li> <li>・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式で<math>\alpha=250</math>を採用できる工法</li> <li>・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式の内<math>\alpha</math>、<math>\beta</math>、<math>\gamma</math>が下記の値を採用できる工法</li> <li><math>\alpha=( )</math>、<math>\beta=( )</math>、<math>\gamma=( )</math></li> <li>工法</li> <li>・プレローリング拡大根固め工法</li> <li>・中掘り拡大根固め工法</li> <li>・杭周固定液</li> <li>・使用する</li> <li>・使用しない</li> <li>・試験杭の位置</li> <li>・図示による( )</li> <li>・杭の支持層への根入れ深さ</li> <li>・図示による( )</li> <li>・杭の精度</li> <li>・水平方向の位置ずれ寸法</li> <li>・※評定等の評価内容による</li> <li>・杭径の1/4かつ100mm以下</li> <li>・杭の傾斜</li> <li>・※評定等の評価内容による</li> <li>・1/100以内</li> <li>杭の継手の工法 (4.3.3、6)(7.2.5)</li> <li>・アーク溶接継手</li> <li>・溶接材料</li> <li>・標準仕様書7.2.5(1)、(2)による</li> <li>・図示による( )</li> <li>・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)</li> <li>・工法</li> <li>・※評定等を受けた工法</li> <li>・検査</li> <li>・※評定等により定められた項目</li> <li>・施工</li> <li>・※評定等をされた施工管理基準による</li> </ul>	種類	コンクリート強度(N/mm <sup>2</sup> )	鋼管厚(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	長期設計支持力(kN/本)	備考	試験杭								本杭							
	種類	コンクリート強度(N/mm <sup>2</sup> )	鋼管厚(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	長期設計支持力(kN/本)	備考																		
試験杭																										
本杭																										
3 鋼杭地業	<ul style="list-style-type: none"> <li>杭頭の処理 (4.3.8)</li> <li>・処理する</li> <li>・処理方法(切断にともなう補強方法含む)</li> <li>・図示による( )</li> <li>杭頭の中詰め材料 (4.3.8)</li> <li>・基礎のコンクリートと同調合のもの</li> <li>材料、寸法、継手等 (4.4.2、3、5)</li> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>杭径(mm)</th> <th>杭長(m)</th> <th>継手数</th> <th>長期設計支持力(kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <li>特定埋込杭工法 (4.2.2)(4.3.1、5)</li> <li>・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式で<math>\alpha=250</math>を採用できる工法</li> <li>・H13国土交通省告示第1113号第6 による地盤の許容支持力式の内<math>\alpha</math>、<math>\beta</math>、<math>\gamma</math>が下記の値を採用できる工法</li> <li><math>\alpha=( )</math>、<math>\beta=( )</math>、<math>\gamma=( )</math></li> <li>工法</li> <li>・中掘り拡大根固め工法</li> <li>試験杭の位置</li> <li>・図示による( )</li> <li>杭の精度</li> <li>・水平方向の位置ずれ寸法</li> <li>・※評定等の評価内容による</li> <li>・杭径の1/4かつ100mm以下</li> <li>杭の傾斜</li> <li>・※評定等の評価内容による</li> <li>・1/100以内</li> <li>杭の継手の工法 (4.4.3、5)(7.2.5)</li> <li>・溶接継手</li> <li>形状</li> <li>・JIS A 5625 による</li> <li>溶接材料</li> <li>・標準仕様書7.2.5(1)、(2)による</li> <li>・図示による( )</li> </ul>	種類	厚さ(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	長期設計支持力(kN/本)	備考	試験杭							本杭										
種類	厚さ(mm)	杭径(mm)	杭長(m)	継手数	長期設計支持力(kN/本)	備考																				
試験杭																										
本杭																										

5 鉄筋工事	4 場所打ちコンクリート杭地業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械式継手(継手部に接続金具を用いた方式のもの)</li> <li>・工法</li> <li>・※評定等を受けた工法</li> <li>・検査</li> <li>・※評定等により定められた項目</li> <li>・施工</li> <li>・※評定等をされた施工管理基準による</li> <li>杭頭の処理 (4.3.8)(4.4.6)</li> <li>・処理する</li> <li>・処理方法(切断にともなう補強方法含む)</li> <li>・図示による( )</li> <li>杭頭の中詰め材料 (4.3.8)</li> <li>・基礎のコンクリートと同調合のもの</li> <li>工法 (4.5.1、4~6)</li> <li>・アースドリル工法 (安定液 ・使用する ・使用しない)</li> <li>・リバース工法</li> <li>・オールケーシング工法 (孔内の水張り ・行う ・行わない)</li> <li>・場所打ち鋼管コンクリート杭工法</li> <li>鋼管材料 ・SKK400</li> <li>鋼管径・板厚・長さ ※図示による( )</li> <li>供用する工法</li> <li>・拡底杭工法 (安定液 ・使用する ・使用しない)</li> <li>材料その他 (4.2.2)(4.5.4)</li> <li>寸法等</li> <table border="1"> <thead> <tr> <th>軸径(mm)</th> <th>拡底径(mm)</th> <th>杭長(m)</th> <th>呼び径</th> <th>長期設計支持力(kN/本)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>試験杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>本杭</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <li>鉄筋の種類</li> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・SD295</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD345</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <li>帯筋</li> <li>・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)2.6帯筋(2)⑥(ロ))</li> <li>鉄筋の最小かぶり厚さ</li> <li>・100mm</li> <li>鉄筋かこの補強</li> <li>・図示による( )</li> <li>組み立てた鉄筋の節ごとの継手</li> <li>・※重ね継手(重ね継手の長さ：標準仕様書 表5.3.2)による</li> <li>・図示による( )</li> <li>主筋の基礎底盤への定着長さ</li> <li>・図示による( )</li> <li>セメントの種類</li> <li>・※高炉セメントB種 ④</li> <li>・コンクリートの設計基準強度</li> <li>・( )N/mm<sup>2</sup></li> <li>・コンクリートの種別</li> <li>・A種 ・B種</li> <li>・評定等の内容による</li> <li>スランプ</li> <li>・18cm ・21cm</li> <li>構造強度補正值</li> <li>・3N/mm<sup>2</sup> ・評定等の内容による</li> <li>試験杭の位置</li> <li>・図示による( )</li> <li>杭の支持層への根入れ深さ</li> <li>・図示による( )</li> <li>杭の精度</li> <li>・水平方向の位置ずれ</li> <li>・評定等の内容による</li> <li>・杭径の1/4かつ100mm以下</li> <li>杭の傾斜</li> <li>・評定等の内容による</li> <li>・1/100以内</li> <li>孔壁の保持状況(孔壁測定)</li> <li>測定箇所 ・試験杭( )箇所及び本杭( )箇所</li> <li>測定方法 ・超音波測定器</li> </ul>	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(m)	呼び径	長期設計支持力(kN/本)	備考	試験杭						本杭						種類の記号	呼び径(mm)	備考	・SD295			・SD345															
	軸径(mm)	拡底径(mm)	杭長(m)	呼び径	長期設計支持力(kN/本)	備考																																				
	試験杭																																									
	本杭																																									
	種類の記号	呼び径(mm)	備考																																							
・SD295																																										
・SD345																																										
5 砂利地業	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料</li> <li>・再生クラッシュヤラン ④</li> <li>・切込砂利又は切込砕石 (4.6.2、3)</li> <li>施工範囲</li> <li>・基礎下、基礎梁下、土間コンクリート下、土に接するスラブ下</li> <li>・図示による( )</li> <li>厚さ</li> <li>※60mm</li> </ul>																																									
6 砂地業	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料</li> <li>・シルト</li> <li>・有機物等の混入しない締固めに適した山砂、川砂又は砕砂 (4.6.2、3)</li> <li>施工範囲</li> <li>・図示による( )</li> <li>厚さ</li> <li>※60mm</li> </ul>																																									
7 捨コンクリート地業	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料</li> <li>・※普通コンクリート (4.6.4)(6.14.1~3)</li> <li>設計基準強度</li> <li>※18N/mm<sup>2</sup></li> <li>スランプ</li> <li>※15cm又は18cm</li> <li>施工範囲</li> <li>・基礎下、基礎梁下、土に接するスラブ下</li> <li>・図示による( )</li> <li>厚さ</li> <li>※50mm(※平たん仕上げ)</li> </ul>																																									
8 床下防湿層	<ul style="list-style-type: none"> <li>材料</li> <li>・ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 (4.6.2、5)</li> <li>施工範囲</li> <li>・建物内の土間スラブ及び土間コンクリート下(ピット下を除く)</li> </ul>																																									
9 地盤改良工法	<ul style="list-style-type: none"> <li>種類及び施工方法等</li> <li>・図示による( )</li> <li>六価クロム溶出試験</li> <li>・行う</li> </ul>																																									
5 鉄筋工事	1 鉄筋	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄筋の種類 (5.2.1)</li> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類の記号</th> <th>呼び径(mm)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・SD295</td> <td>※ D16以下</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・SD345</td> <td>※ D19以上</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <li>形状等 (5.2.2)</li> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>網目の形状、寸法、鉄筋の径(mm)</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>溶接金網</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <li>鉄筋の継手方法等 (5.3.4)</li> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>継手方法</th> <th>呼び径(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱、梁の主筋</td> <td>・ガス圧接</td> <td>・機械式継手</td> <td>※ D19以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・溶接継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐力壁の鉄筋</td> <td>・重ね継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎、耐圧スラブ、土圧壁</td> <td>・重ね継手</td> <td>・ガス圧接</td> </tr> <tr> <td>その他の鉄筋</td> <td>・重ね継手</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <li>継手位置</li> <li>・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)5.1、6.1、7、7.3、8.1)</li> <li>・基礎梁主筋の継手位置</li> <li>・図5.2 ・図5.3 ・図5.4</li> <li>・図示による( )</li> <li>柱及び梁の重ね継手の長さ</li> <li>・図示による( )</li> <li>耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ</li> <li>・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)3(1)(g))</li> <li>・図示による( )</li> <li>柱及び梁の主筋で隣り合う継手を同一箇所に設ける部分の位置及び施工方法等</li> <li>・図示による( )</li> </ul>	種類の記号	呼び径(mm)	備考	・SD295	※ D16以下		・SD345	※ D19以上		種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄筋の径(mm)	使用部位	溶接金網				鉄筋格子				部位	継手方法	呼び径(mm)	柱、梁の主筋	・ガス圧接	・機械式継手	※ D19以上		・溶接継手		耐力壁の鉄筋	・重ね継手		基礎、耐圧スラブ、土圧壁	・重ね継手	・ガス圧接	その他の鉄筋	・重ね継手	
	種類の記号	呼び径(mm)	備考																																							
	・SD295	※ D16以下																																								
・SD345	※ D19以上																																									
種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄筋の径(mm)	使用部位																																							
溶接金網																																										
鉄筋格子																																										
部位	継手方法	呼び径(mm)																																								
柱、梁の主筋	・ガス圧接	・機械式継手	※ D19以上																																							
	・溶接継手																																									
耐力壁の鉄筋	・重ね継手																																									
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	・重ね継手	・ガス圧接																																								
その他の鉄筋	・重ね継手																																									
2 溶接金網	<ul style="list-style-type: none"> <li>形状等 (5.2.2)</li> <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>網目の形状、寸法、鉄筋の径(mm)</th> <th>使用部位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>溶接金網</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> </ul>	種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄筋の径(mm)	使用部位	溶接金網				鉄筋格子																																
種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄筋の径(mm)	使用部位																																							
溶接金網																																										
鉄筋格子																																										
3 鉄筋の継手	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄筋の継手方法等 (5.3.4)</li> <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>継手方法</th> <th>呼び径(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柱、梁の主筋</td> <td>・ガス圧接</td> <td>・機械式継手</td> <td>※ D19以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・溶接継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐力壁の鉄筋</td> <td>・重ね継手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>基礎、耐圧スラブ、土圧壁</td> <td>・重ね継手</td> <td>・ガス圧接</td> </tr> <tr> <td>その他の鉄筋</td> <td>・重ね継手</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <li>継手位置</li> <li>・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)5.1、6.1、7、7.3、8.1)</li> <li>・基礎梁主筋の継手位置</li> <li>・図5.2 ・図5.3 ・図5.4</li> <li>・図示による( )</li> <li>柱及び梁の重ね継手の長さ</li> <li>・図示による( )</li> <li>耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さ</li> <li>・図示による(構造関係共通図(配筋標準図)3(1)(g))</li> <li>・図示による( )</li> <li>柱及び梁の主筋で隣り合う継手を同一箇所に設ける部分の位置及び施工方法等</li> <li>・図示による( )</li> </ul>	部位	継手方法	呼び径(mm)	柱、梁の主筋	・ガス圧接	・機械式継手	※ D19以上		・溶接継手		耐力壁の鉄筋	・重ね継手		基礎、耐圧スラブ、土圧壁	・重ね継手	・ガス圧接	その他の鉄筋	・重ね継手																							
部位	継手方法	呼び径(mm)																																								
柱、梁の主筋	・ガス圧接	・機械式継手	※ D19以上																																							
	・溶接継手																																									
耐力壁の鉄筋	・重ね継手																																									
基礎、耐圧スラブ、土圧壁	・重ね継手	・ガス圧接																																								
その他の鉄筋	・重ね継手																																									

4 鉄筋の定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄筋の定着長さ (5.3.4)</li> <li>・図示による( )</li> <li>機械式定着工法</li> <li>適用場所</li> <li>・図示による( )</li> <li>種類</li> <li>・摩擦圧接結合</li> <li>・螺合グラウト固定</li> <li>・嵌合グラウト固定</li> <li>工法</li> <li>・※第三者機関の評定等を取得している工法とする</li> <li>必要定着長さ</li> <li>・※評定等の評価内容による</li> <li>補強防形状</li> <li>・※評定等の評価内容による</li> <li>かぶり厚さ</li> <li>・※評定等の評価内容による</li> <li>品質確認</li> <li>・※評定等の評価内容による</li> <li>検査</li> <li>・※評定等の評価内容による</li> <li>鉄筋の余長の長さ</li> <li>・構造関係共通図(配筋標準図)による。これによらない箇所は図示による。</li> </ul>
	5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔(溶接金網含む)
6 各部配筋	<ul style="list-style-type: none"> <li>※図示による (5.3.7)</li> </ul>
7 ガス圧接	<ul style="list-style-type: none"> <li>圧接完了後の圧接部の試験 (5.4.10)</li> <li>・外観試験</li> <li>・※行う(全ての圧接部)</li> <li>抜取試験</li> <li>・※超音波探傷試験(試験方法 標準仕様書5.4.10(i)(a)による)</li> <li>・引張試験</li> <li>試験方法</li> <li>・標準仕様書5.4.10(i)(b)による</li> </ul>
8 機械式継手	<ul style="list-style-type: none"> <li>適用箇所 (5.5.3、5)</li> <li>・図示による( )</li> <li>H12建告第1463号に適合する性能</li> <li>・A級</li> <li>種類</li> <li>・ねじ式鉄筋継手</li> <li>・充填方式</li> <li>・無縫クラウト方式</li> <li>・有機グラウト方式</li> <li>・端部ねじ加工継手</li> <li>・モルタル充填式継手</li> <li>工法</li> <li>・※第三者機関の評定等を取得している工法</li> <li>鉄筋相互のあき</li> <li>・※評定等の評価内容による</li> <li>品質の確認</li> <li>・※評定等の評価内容による</li> <li>検査</li> <li>・※評定等の評価内容による</li> <li>施工完了後の継手部の試験</li> <li>・外観試験</li> <li>試験対象</li> <li>※全数</li> <li>試験項目</li> <li>・評定等の評価内容による</li> <li>試験方法</li> <li>・評定等の評価内容による</li> <li>・超音波測定試験</li> <li>試験対象</li> <li>・抜取り</li> <li>ロット</li> <li>・1組の作業班が1日に行った継手箇所、最大200箇所程度とする</li> <li>試験の箇所数</li> <li>・1ロットに対して( )箇所</li> <li>・全数</li> <li>試験項目</li> <li>※挿入長さ</li> <li>試験方法</li> <li>※JIS Z 3064(鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定方法及び判定基準)による</li> <li>不合格となった場合の措置</li> </ul>
9 溶接継手	<ul style="list-style-type: none"> <li>適用箇所 (5.5.3、5)</li> <li>・図示による( )</li> <li>H12建告第1463号に適合する性能</li> <li>溶接継手の工法</li> <li>・図示による( )</li> <li>鉄筋相互のあき</li> <li>・標準仕様書5.3.5(4)による</li> <li>・評定等の評価内容による</li> <li>・図示による( )</li> <li>施工完了後の溶接部の試験</li> <li>・外観試験</li> <li>試験対象</li> <li>※全数</li> <li>試験項目</li> <li>・評定等の評価内容による</li> <li>試験方法</li> <li>・評定等の評価内容による</li> <li>・超音波測定試験</li> <li>試験対象</li> <li>・抜取り</li> <li>ロット</li> <li>・1組の作業班が1日に行った溶接箇所、最大200箇所程度とする</li> <li>試験の箇所数</li> <li>・1ロットに対して( )箇所</li> <li>・全数</li> <li>試験項目</li> <li>※内部欠陥の検出</li> <li>試験方法</li> <li>※JIS Z 3063(鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波測定方法及び判定基準)による</li> <li>不合格となった場合の措置</li> </ul>



Table with 2 columns: Item No. (e.g., 1, 2, 3) and Description (e.g., コンクリートの種類等, セメント, 骨材). Includes sub-tables for material specifications and construction methods.

Table with 2 columns: Item No. (e.g., 14, 15, 7) and Description (e.g., 無筋コンクリート, コンクリートの種類, 鉄骨製作工場). Includes sub-tables for material types and factory specifications.

Table with 2 columns: Item No. (e.g., 10, 11, 12) and Description (e.g., スタッド, 柱底均しモルタル, 製作精度). Includes sub-tables for material types and construction methods.

Table with 2 columns: Item No. (e.g., 21, 22) and Description (e.g., 溶融亜鉛めっき, 梁貫通孔の補強). Includes sub-tables for material types and construction methods.

Project Information Table with columns: 工事名 (東鷲宮駅東口立体施設整備工事), 路線名 (市道鷲宮76号線), 工事箇所 (久喜市桜田1丁目地内), 図面名 (特記仕様書 (構造関係・その他)), 縮尺 (S= 図示), 図面番号 (S-8), 発注者 (埼玉県 久喜市 都市整備課).